に，ステロイドにより低下傾向が，また金コロイドにより上昇傾向が認められた。金コロイドの免疫系におよぼす作用機序は不明の点が多いが，NK 細胞活性を上昇させることは，JRA における金コロイドの有効性と合わせ考えると興味深く思われる。

〔結　語〕

JRA の生活指導においては，患児および家族に JRA という病気そのものの理解を徹底させ，運動面，学習面においては可能な限り積極的に行ない，希望を持った生活を送れるよう努力することが重要と思われる。また，治療経過中の病勢を知る指標として NK 細胞活性が注目された。

JRA の生活指導指針に関する研究
―JRA 生活指導表（案）実行度の評価―

横浜市立大学小児科　植地正文
西山裕子
小菅啓司
横田俊平
森　哲夫

〔はじめに〕

若年性関節リウマチ（以下 JRA と略）は適切な治療を受けていれば，SLE などにくらべて生命的予後は悪くない。それ故に社会的予後が問題になってくる。成長発達をとげている小児にとって関節の運動機能障害―ことに加重関節の障害は大変重要な問題である。JRA の疾患活動性に応じた的確な保存療法を日常生活に組み込んだ形での生活指導が望まれるところである。

今回はこのような趣旨のもとに JRA の管理指導表（案）がつくられた。それを用いてその実行度を JRA 11 例について検討してみたので，その成績を報告する。

〔対象および方法〕

横浜市大小児科リウマチ外来に通院加療中のうちの11例を対象とした。対象の病型はSystemic type 4例(active 2例，inactive 2例)，Pauciarticular type 3例（active 1例，inactive 2例），Polyarticular type 4例（active 3例，inactive 1例）であった。学年区分は表3に示すごとく，小学生5名，中学生3名，高校生3名であった。

JRA 管理指導表（案）は表1のものを用いた。また管理区分については表2のものを用いた。実行度の評価として○印はよく行っている，△印はあまり行っていない，×印は全く行っていないの三群に分けた。問診した期間は昭和57年8月から12月までである。

〔成績および考按〕

JRA の管理指導表（案）の実行度については表3に示す。

すなわち，小学生では母親がこの計画に協力的であり，かつ積極的にとりくんでいる場合にはかなりよく実行されているが，一たび JRA が活動性になると，必要以上に過保護傾向になる印象をうけた。そのためにあらゆるスポーツ，遠足，などをやらせない傾向がみられ，家庭内の学習についてもさせていない傾向がみられた。しかし臨海や林間のように一度チャンスを失うととりかえしがつかないものについては出席させる傾向がみられ，禁止であっても出席させるようである。

中学生や高校生については総じて全く非協力的で，評価すること自体不可能であった。実際に行っていることと回答との間にはかなりの差がみられた。JRA の病気の予後に対して，本人の自覚がまだ乏しい段階では JRA の管理指導表を忠実に行わせること自体かなりむづかしい。進学とからんでいて体育を休むとその評価がおちるという現実の問題になってきた人々は，一生懸命に体育をする傾向がある。しかしながら評価に関係のない校外授業やクラスの仕事など――文化活動，遠足，林

表 1 若年性関節リウマチ管理指導表（案）

氏　名　　生年月日　年　月　日生　才　　昭和　年　月　日

診断名　　病院名

医　師

医療面からの区分	区分	学校生活からの区分	教室での学習	体育 上肢 軽度	体育 上肢 中等度	体育 上肢 高度	体育 下肢 軽度	体育 下肢 中等度	体育 下肢 高度	クラブ活動及び部活動 スポーツ的活動	クラブ活動及び部活動 文化的活動	家庭での学習
1 要医療	A	登校禁止	禁	禁			禁			禁	禁	禁
	B	要制限	可（時に休養）	見学または休養						禁	禁	制限
	C	要養護	可	一部可			一部可			禁	可	制限
2 要観察	D	要注意	可	可	一部可		可	一部可		一部可	可	普通
3 普通	E	普通生活	可	可			可			可	可	普通

特別教育活動

Ⅰ．児童生徒活動
　学級委員などＡＢＣで禁止
Ⅱ．遠足，見学
　ＡＢ．禁止
　　Ｃ．バスで行くことのみ可
　　Ｄ．登山長距離徒歩禁
Ⅲ．林間学校，修学旅行
　ＡＢ．禁止
　　Ｃ．参加（但し，長距離歩行禁）
Ⅳ．臨海学校
　ＡＢＣ．禁止
　　Ｄ．条件付参加
Ⅴ．朝礼，清掃，その他
　ＡＢ．禁止

（一部可の部位に可・禁のいずれかを記入）

表 2 管理区分についての目安（案）

区分	A	B	C	D	E
医療・教育 日常生活管理	入院が望ましい 厳重な生活管理を行なう必要があるもの	登校可能（時に休養） 無理のない日常生活を行なう必要があるもの	登校可能 無理のない日常生活を行なう必要があるもの	登校可能 過労をさける必要があるもの	登校可能 通常の生活ができるもの
全身症状の程度	急性期	慢性期	慢性期	鎮静期	鎮静期
関節症状の程度	上・下肢共に大関節に炎症のあるもの	上肢または下肢の大関節に炎症のあるもの	上肢または下肢の少数関節に炎症のあるもの	上肢または下肢の関節に強い変形や軽い炎症の残っているもの	上・下肢の関節炎の全く鎮静したもの

間，臨海，掃除などについては禁止されれば逆によろこんで休む傾向のあることがはっきりした。この事実は横浜だけの問題ではないと思われるが……。この管理表に何らかの重み—成績の評価に影響するとか，罰則があるとかの強制力がなければ，この学年群の人々は仲々実行しないようである。まして活動性になり朝のこわばり，関節痛が存在しているときには規則正しい生活はおくれず，気ままにしているようである。腎疾患や心疾患の場合には禁止している事項をおかしたときに何らかの障害がでてくるが，JRA の場合にはすぐにあらわれてこないという点がことなる。強制的に行わせる方策はどのようにしたらよいかを考え，管理指導表に項目を追加してゆく必要があると思われる。

われわれのところの経験として，考古学の発掘調査のアルバイトや牛乳配達のアルバイトなどを行っているときには多関節型の関節の動きもよくなってきたという例がある。毎日規則的に四肢を動かす運動をさせたことがよかったものと思われる。このように何らかの強制的な日課をサボタージュすることなく実行させることによって，関節機能の障害の程度をかるくすることができるのではなかろうか。

表 3　JRA 管理指導表にしたがった実行度　（横浜市大・小）

No.	学年	病型	区分	教室での学習	体育	部活動		家庭での学習	見学・遠足	林間・修学	臨海	掃除など
						スポーツ	文化					
1	小5	Pauci. inactive	E	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	小5	Syst. active	C	○	△	×	○	×	×	○	×	○
3	小4	Pauci. active	C	○	△	○	○	×	×	○	○	○
4*	小3	Poly. active	A	×	×	×	×	×	×	○	○	×
5	小3	Syst. inactive	D	○	○	○	○	○	×	○	○	○
6	中3	Poly. active	C	○	○	×	○	×	×	×	×	×
7	中3	Pauci. inactive	E	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	中1	Syst. active	C	×	×	○	×	×	×	×	○	×
9	高2	Poly. active	D	○	△	×	○	○	×	○	×	×
10	高2	Poly. active	A	×	×	○	×	×	×	×	×	○
11	高3	Syst. inactive	E	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*……最近死亡

〔おわりに〕

JRA 管理指導表（案）を実行させてみた。その結果，家族の監視の目がひかっている小学生についてはある程度の効果を認めたが，中学生・高校生については本人の自覚以外に実行させることはむづかしかった。何らかの強制させる方策を考える必要のあることを痛感した。

全身型若年性関節リウマチの長期管理，とくに長期薬剤投与方針に関する研究

福岡大学小児科　小　田　禎　一

〔目　的〕

全身型 JRA（若年性関節リウマチ）のうち，長期薬剤投与を必要とする例に，どのような薬剤および使用方法が有効かつ安全であるかを検討する。

〔方　法〕

(1) 全身型 JRA の分類（小田試案）

1) 寛解を伴う単周期型

2) 寛解を伴わない単周期型

3) 不完全寛解を伴う多周期型

4) 完全寛解を伴う多周期型

(2) 7症例（3～10才，男4，女3）について薬剤の効果および副作用を検討した。うち分類 1) が1例，3) が3例，4) が3例あった。使用した薬剤は，aspirin, ibuprofen, indomethacin, piroxycam および prednisolone であった。多くの例に pantethine 1日 200～500 mg を併用したが，その効果の判定は行わなかった。発熱および関節症状の抑制がみられたものを有効とした。

〔結　果〕

全例を通じて，造血器障害，出血傾向はみられなかった。

Aspirin 単独では，1日 50～75 mg/kg（サリチル酸血中濃度<10 mg/dl）で十分有効な例が3例あった。一方，75～100 mg/kg（血中濃度 10～33 mg/dl）で肝障害（GOT・GPT の上昇）をきたした例が2例あった。肝障害は使用開始後1週間以内にみられた。

Aspirin と ibuprofen の併用は，aspirin 単独より有効なことが多かったが，ibuprofen 自体（12～23mg/kg）によって肝障害のみられた例もあり，この場合 aspirin と同様，dose-dependent であった。

Piroxycam は成人量に匹敵する 0.38 mg/kg を用い

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔はじめに〕

若年性関節リウマチ(以下JRAと略)は適切な治療を受けていれば,SLEなどにくらべて生命的予後は悪くない。それ故に社会的予後が問題になってくる。成長発達をとげている小児にとって関節の運動機能障害－ことに加重関節の障害は大変重要な問題である。JRA の疾患活動性に応じた的確な保存療法を日常生活に組み込んだ形での生活指導が望まれるところである。

今回はこのような趣旨のもとにJRAの管理指導表(案)がつくられた。それを用いてその実行度をJRA 11例について検討してみたので,その成績を報告する。